◆薬　局　　局　長　和田匡央

2015年度も、新人薬剤師1名を迎え入れ、薬剤師7名（非常勤1名含）、事務員3名（産休による引き継ぎのため1名は5月まで）の計10名でスタートした。非常勤薬剤師（週2日勤務ではあるが）のサポートもあり、新人薬剤師および新人事務員の教育・指導にも力を注ぐことができた。今年こそ安定した1年をおくれるものと期待していたのだが、残念ながら非常勤薬剤師の12月退職により、第4四半期は非常に慌ただしい毎日となった。そのような状況のなか、若手とベテランがうまく融合し、医薬品を扱うエキスパートとして良質な医療を提供できるようチームワークで「この1年を何とか乗り切った」というのが、正直なところである。

2015年度の活動

1．人材育成

人材確保および人材育成は毎年重要な課題である。限られた人員で、日常業務を遂行しながらの人材育成のため、薬剤師によるマンツーマンでの指導が難しい状況のもと、事務スタッフにも協力してもらいながらチームワークで新入職スタッフおよび若手スタッフの育成に取り組んだ。ＯＪＴが中心の指導になるが、ベテラン薬剤師がいつでもサポートできる体制構築を行うとともに、各種委員会や回診への積極的な参画を促し、失敗を恐れず、失敗・経験から学べる環境作りに努めた。今年度も、この積極的な活動から得ることができる経験値の重みと、常に考え、自ら答えを導き出そうとする過程の重要性も感じてもらえるよう取り組んだ。

2．外来対応

外来調剤は今年度も薬局の中心業務であった。今年度は改めてお薬手帳の重要性を認識し、全ての患者さんがお薬手帳を所有および有効活用してもらえるよう取り組んだ。特に上半期は、お薬手帳所持率100%を目指し、大量のお薬手帳を購入・配布を行った。その結果、一部「お薬手帳作成拒否」の方を除き、当院かかりつけの患者さんほぼ全員が所有するようになった。ただ、お薬手帳配布（交付）後、次の診察に持参されない方が少なからずいらっしゃる。まだまだお薬手帳を十分に活用できていないのが実情であり、今後の課題でもある。また、薬局窓口での対応内容を積極的に電子カルテに記載するよう取り組み、記録の重要性を認識するとともに、医薬品の適正使用の推進とアドヒアランスの向上に努めた。今年度も患者さんのニーズにも可能な限り応えるよう取り組み、手間と時間を要する業務ではあるが、一包化調剤を数多く行い、コンプライアンス向上にも努めた。

	2015年度	2014年度
一包化調剤（外来）（件）	2,414	2,484

3．病棟業務

今年度は若手を病棟担当薬剤師として抜擢し、考える力、予測する力、コミュニケーション能力などなど、経験から学べる環境作りに取り組んだ。限られた時間内での活動であるため、適宜ベテラン薬剤師によるサポートも行い、チーム医療を常に意識し、病棟スタッフとの連携をうまく行いながら、患者さんに安心で安全な医療を提供できるよう努めた。特に、電子カルテを利用しての情報収集も重要ではあるが、各職種との対話による情報交換の重要性も認識しながら活動を行った。また、前年度に引き続き、持ち込み薬（持参薬）が非常に多い中で、可能な限りタイムリーに鑑別報告書を作成することで医薬品の安全管理に大きく貢献できた。その他、医師の処方支援をはじめ、カルテ記録等々、一元化された電子カルテデータの有効活用を推進。ＮＳＴ回診、ＩＣＴ回診、緩和ケア回診、褥創回診、ＤＭ教室等々へも参加し、求められているチーム医療に貢献できたものと考える。

	2015年度	2014年度
薬剤鑑別（件）	919	923

4．がん化学療法における抗がん剤の無菌調製

無菌調製を開始して5年目になるが、今年度も1年を通して、入院・外来を問わず、全ての抗がん剤の無菌調製を行うことができた。また、当日の急なオーダに対しても、臨機応変に対応し、特に医師の業務負担軽減（抗がん剤オーダサポート、前投与薬チェック、副作用予防薬処方支援など）に大いに貢献できたと考える。

	2015年度	2014年度
抗がん剤無菌調製（件）	311	348

5．医薬品ミニレクチャー、出前・健康講座および自己啓発

今年度も、薬剤師が病棟および外来に出向き看護師に対してスモールグループで医薬品に関するミニレクチャーを実施（年3回実施）。各薬剤師が作成した資料もデータベース化し、いつでもどこでも閲覧できるよう構築。また、地域住民向けの出前・健康講座へも積極的に参画し、今年度は3回開催することができた。その他、今年度も毎週1回、朝業務開始前に医薬品に関する勉強会（メーカ主催および各薬剤師担当の薬局内勉強会）を開催し、日々の研鑽に努めた。また、上天草地区の調剤薬局薬剤師との連携を深める一貫として、前年度から開始した症例検討会を、今年度も医師に協力頂き開催することができた。

6．医薬品情報提供

医薬品情報データベースに、医薬品ミニレクチャーをはじめ、看護師向け情報、安全性情報、研修会案内等々掲載し、情報の共有化・一元化に努めた。今年度は、院長先生作「脳の話」、庄野先生作「心臓の話」に続き、原先生作「パーキンソン病の話」、町田先生作「ＣＫＤの話」も掲載し、スタッフが、いつでも、どこからでも確認できるよう医薬品情報データベースの改訂・更新を随時行った。

7．医薬品管理

今年度は、高額医薬品の購入が多く、不良在庫により経営面でマイナス要因とならない在庫管理を推進した。また、ジェネリック医薬品への切替えも多く、スムーズに切替えが行えるよう事前準備に力を注ぐとともに、事務スタッフの力を借りて期限切れ医薬品の低減にも力を注いだ。

今後の課題と展望

2016年度は、待望の常勤薬剤師7名体制となり、日曜日の出勤も開始予定である。薬局理念でもある「患者さんを第一に考えた、安心・安全で良質な薬物療法の提供に努めます」を柱に、さらなる医薬品の安全管理と適正使用および人材育成を推進していけるよう取り組んで行きます。